

① 小 麦

② 原 子 力

③ 交 わ す

④ 強 弱

⑤ 凶 星

2

1 A エ

B ウ

C ア

2 八 字

子

る

七 字

自

る

※2 各完答

3

ハ

チ

の

巣

4 ア

2

イ

2

ウ

1

3

1 A ウ

B イ

C ア

2 ア

お

も

し

ろ

イ

お

こ

ら

れ

3 ア

4 イ

5 ウ

6 ウ

配 点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
<計>100点	

① 「麦」の上を「土」に、下を「又」にしないように気をつけよう。② 「原子」は「原始」という同音異義語があるので、きちんと区別できるようにしよう。③ 「交」は「コウ」という音読みだけでなく、「か(わす)」「まじ(わる)」という訓読みもしっかりおぼえておこう。字形に気をつけて書こう。④ 「強」の「ゆみへん」の形に気をつけよう。また最後の「虫」のところはつづけ字にならないように書くこと。⑤ 「凶星」は「人の思わくなどの、最もかんじんな所。急所。」という意味で、「凶星をつかれた」「どうだ、凶星だろう」などという使いかたをする。

2

1 A (A)の前でハチにさされるといふこまだったことが書かれているが、(A)の後でそれには理由があるのだとフォローしていることから考える。

B (B)の後から話題が変わっていることから考える。

C (C)の前の内容が後に書かれていることの理由になっていることから考える。

2 「さす理由」については第二段落に「そこに人間が近づくと、子どもと巣を守るために、ハチははりを使って、こうげきしてくるのです。もちろん、自分の身を守る時にも、こうげきします」と書かれている。八字のほうは「ため」という目的をあらわすことばを手がかりに見つければよい。七字のほうは「も」という並列の目印が手がかりとなっている。

3 傍線部②をふくむ一文「そこに人間が近づくと、子どもと巣を守るために、ハチははりを使って、こうげきしてくるのです」から、「そこ」は人間が近づくとハチが子どもと巣を守るためにこうげきしてくるところということがわかる。「子ども」は場所ではないのでふさわしくない。「巣の中」に人間が近づくのはおかしいし、「巣」一字では字数が少なすぎる。問いの条件が一番合うのは「ハチの巣」になる。

4 ア 本文八行目に「その産らん管を、毒ばりとしても使うようになったハチ」とある。「毒ばりとしても使う」ということは「産らん管」としても使うということだから、たまごを産むことはできるだろう。

イ 動けなくさせるのは「チョウやガなど」ではなく、その「よう虫」であると本文第五段落に書かれている。

ウ ハチは巣に近づくと人間を毒ばりでこうげきしてくるのだから、当然近づかないほうがいいだろう。

3

1 A (A)の直後にある「ぼくのおかげだね」から、自慢げなぼくの様子を感じられる。

B 「ぼく」はしゅくだいをわすれる理由を考えるのは楽しいことだと思っていたのに「どうま」は否定的だったので、「ぼく」はおどろいているのである。

C しゅくだいをわすれる理由がなかなか思いつかなかったことから考える。

2 傍線部①の後を見ると「四年二組では、毎日だれかがしゅくだいをわすれた。朝の会の始まる前の時間が、『しゅくだいをわすれた理由』を聞く時間だ。みんな、さまざま理由でしゅくだいをわすれた……しゅくだいをやらなくてもおこられないし、理由は毎日おもしろくて、聞くのも楽しみだ」とある。「ぼく」が話した「しゅくだいをわすれた理由」がおもしろくて、先生がおこらなかつたので、ほかの子どもわざとしゅくだいをわすれてその理由を話すようになったと考えられる。

3 (3-2) 本文二行目で「どうま」が今にもなきだしそうに「そうだよ。おれ、なんにも思いつかないよ」と言っていることからアになる。

4 ③の前後で「りな」が言っている内容から、「しゅくだいをわすれた理由」を考えてくるのは当番のようなものになっていることがわかる。そのきまりを「どうま」はやぶろうとしているのだから、イの「言いにくそうに」になる。

5 「いいウン」なのだからプラスのものでなければならぬ。そうすると答えはウの「人を楽しませるもの」しかない。

6 しゅくだいをするのにくらべて、「しゅくだいのできなかった理由」を考えるのは時間がかかったのだからと考えられる。イの「十分」ではしゅくだいと同日だし、エの「一日」は長すぎるだろう。